



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
 ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
 ◆会 長 / 渡辺 頼雄 ◆副 会 長 / 掛川興太郎
 ◆幹 事 / 前田 博志 ◆広報・情報委員長 / 矢島 栄一



2015~2016 年度

国際ロータリーのテーマ

NO. 1317 平成28年5月10日

◆点鐘	渡辺 頼雄 会長
◆SAA	工藤 泰一 委員
◆ソング	君が代・誕生日の歌
◆ゲスト	小林 明宏様 (八十二銀行小諸支店長)

◆誕生祝

小山 盛夫会員・両川 栄会員

◆結婚祝

神津 恭通会員 元子夫人
 両川 栄 会員 まさ子夫人
 渡辺 英世会員 一美夫人

【会長挨拶】 渡辺 頼雄 会長

4月26日、坂の上小学校での勉強会、ありがとうございました。

明治34年~41年佐藤寅太郎校長先生の梅花教育「胸にかざる梅の花 これわが校の徽章なり 雪にも霜にもうちたえて良き香り放つ梅の花 学びの道もかくしてぞ 千代の香りの花も咲く いざ勉めなん勤勉を」そして、現校歌3番にも生きております。緋ラシヤと白ボタンの徽章も頂きました。

お昼に1年生、2年生の子供達のいる教室にも行かせて頂きました。256円の給食、おいしく頂きました。栄養士の先生、調理師の先生方の心のこもった給食、学校の食育は学校給食を中心に行われますとのこと。子供達本当に幸せだなと感じました。

”熊本地震”衷心よりお見舞い申し上げます。いろいろな方法で応援をお届けしたいと思います。

さて、今日は楽しみにしておりました八十二 小林支店長のお話の日です。

○台湾の鴻海はシャープを買った

○米 GE(ゼネラルエレクトリック)は エジソンからの祖

業である家電事業を中国のハイアールに売った。

○日本 GE キャピタルリース 融資事業は2016.4.1 三井住友ファイナンス&リース(株)に売却。当社は三井住友との付き合いはありませんが、日本 GE キャピタルリースは長いお取引です。ハイレベルの会社です。

グローバル経営という視点からみたら今は 平時ではない 有時であるといわれています。

金融界からこれからの日本、これからの世界のことをお話し宜しくお願い致します。

【幹事報告】前田 博志 幹事

1. インターアクトより第23回インターアクト地区大会報告書
2. 品田宗久東信第一グループガバナー補佐、東方良夫東信第二グループガバナー補佐より「IM及び会員セミナー」報告書DVD
3. 例会变更

佐久コスモRC	5月23日(月)	定刻受付なし
軽井沢RC	5月23日(月)	定刻受付あり
	6月20日(月)	定刻受付あり
4. 週報

上田東、東御RC
5. (株)アイク 関様より時刻表

・当クラブ、5月17日(火)合同夜間例会の為休会

・5月18日(水)合同夜間例会(小諸グランドキャッスルホテル 18時より)・合同親睦ゴルフ(大浅間ゴルフクラブ 集合7:55 スタート 8:28)

・例会終了後、現及び次期合同理事会

【本日の配布物】

週報1316号、ガバナー月信11号、クラブ協議会案内
 ロータリーの友5月号

◆出席報告 黒澤 明男 委員長

会員数23名 出席義務者20名 免除者3名

本日 出席 18名

事前 MU 1名 90.00%

前々回(4/19) MU 0名 77.78%

◆委員会報告

クラブ広報・情報委員会 工藤 泰一委員

ロータリーの友 5月号紹介

◆ラッキー賞

NO. 8 青松 英和 君

◆ニコ BOX 黒澤 明男 委員

渡辺 頼雄君	小林支店長様、お話、宜しくお願い致します。
前田 博志君	小林支店長、ありがとう。
青松 英和君	久しぶりにラッキー賞に当たりました。小林支店長さん、有難うございました。
小山 盛夫君	先月、結婚祝、今月は誕生祝を頂きました。重ねて有難うございます。

黒澤 明男君	小林支店長の卓話、楽しみにしておりました。神津会員より結婚祝のお礼と休会が続き申し訳ありませんとして、大枚を預かってまいりましたのでBOXさせていただきます。会員の皆様に宜しくお伝え下さいとのメッセージを頂きました。
--------	--

◆【本日のプログラム】「最近の金融情勢 マイナス金利について」

八十二銀行小諸支店長 小林 明宏 様



本日は、最近の金融情勢と題して、昨今話題のマイナス金利のお話をさせていただきます。近頃、マイナス金利という言葉だけが独り歩きして、まるで、預金を預けていると金利を取られてしまうのではというような誤解が広まっています。これは完全な誤解であるということと、このマイナス金利が意味するところを知っていただくというのが、今回のテーマです。

2013年4月に、日銀は「量的・質的緩和政策」を打ち出しました。

いわゆる「異次元緩和」というものです。これは、資金の供給量を増やすだけでなく、市中に出回っている国債を大量に日銀が買い上げることで、さらに、大量の資金供給(マネタリーベースの増大)を図ろうとしました。この結果として、国債の利回りは大幅に低下し、海外との金利差が拡大。それにより、円安、株高が演出されたわけです。円相場は1ドル120円台まで下落し、株式相場は一時2万円台まで上昇しました。

しかし、日銀の本来の狙いは、国債を買い上げることで、市中に資金を還流させ、投資誘発を行い、円安によって輸出拡大、海外生産の国内回帰を促すということにあったはずでした。これに対してどうであったかという、市中還流はうまく進まず、国債を買い上げた資金は各金融機関の日銀当座預金に積み上がるのみでした。また、輸出増も期待したほど増加しませんでした。また、製造業の国内回帰などは、それ自体が、少しの円安でどうにかなるというものではなかったのです。

こうした中、新興国、とりわけ中国の景気悪化を背景に、国内経済の失速感が強まり、日銀が目指した、物価上昇率2%、賃金上昇などの実現が遠のいてしまいました。

そのような過程で、今年の1月に登場したのがマイナス金利なのです。「マイナス金利付き量的・質的緩和政策」というのが、マイナス金利の本名です。マイナス金利という現象では無く、金融政策だということが、まず、最初のキープポイントです。

さきほど、国債買い上げによる資金還流がうまくいかなかったと申し上げました。このグラフをご覧ください。異次元緩和が始まって以来、急激に日銀当座預金の残高が増えているのが見て取れます。いくらかは市中への還流はあったと思いますが、日銀が意図したほどは、還流が図れなかったというのが、このグラフの示すところではないでしょうか。

マイナス金利という金融政策は、こうした、日銀の金融機関の当座預金に積みあがっているだけの資金を、強制力をもって市中還流をしようというのが目的でしょう。次のようなイメージ図で説明しますと、今年度以降も日銀は市中から国債を買い上げます。今まで積み上がった分はともかくとして、今後、日銀当座預金に積み上がる分には、マイナスの金利が適用される。預けておいて金利を取られるくらいならと、銀行は資金を企業や個人の投資に積極的な資金供給を行う。その結果として、経済も安定し、物価も適度に上昇し、拡大再生産が行われていく。こういった成長シナリオを描いているのだと思います。

冒頭、マイナス金利政策が、一般の方の預金金利もマイナスにするという誤解があると申し上げました。ここは、明確に申し上げておきますが、マイナスにしたのは、金融機関同士などがごく短期間の資金をやり取りする市場の金利をマイナスにしたということで、一般の銀行預金の金利をマイナスにするということではないのです。この図を見ていただきたいのですが、左の図はゼロ金利制約、つまり、金利はどんなに下がっても0%にしかならない場合のイールドカーブを示しています。一方、右側の図は、金利のスタートラインをマイナスした図です。マイナスにならないものが、なぜマイナスになるのかというと、日銀当座預金の金利は、需給関係に基づく金利ではないからです。日銀がマイナスだと言ったらマイナスになってしまうのです。これにより、先ほど、お話ししたように、ごく短期の資金をやり取りする金融市場の金利がマイナスに引きずられます。そして、スタートラインをマイナスにすることで、イールドカーブは当然下側に移ります。これは、何を言いたいかというと、次のページ。金融機関が大口融資を行う際に適用する金利は、短期金融市場に、期間に応じた利ざやを加えて算出します。短期金融市場の金利をマイナスにすれば、利ざやを加えても、低い金利が実現できます。金利が下がるので、借り手は借りやすくなって、資金は市中に還流するという仕組みです。

借りやすくするというのを次の図で説明します。この図のように、期待インフレ率が名目金利を上回っている場合、将来買うよりも、今、お金を借りて買ってしまった方が得になります。ですから、この差が大きければ大きいほど、今借りたほうが得ということになります。つまり、今回のマイナス金利政策は、期待インフレ率は変えられなくても、マイナス金利の導入により、名目金利を引き下げることによって、お金を借りる意欲を湧かせようという一面もあるのです。

以上、マイナス金利の意味するもの、また、その狙いについて私なりの解釈を申し上げてきました。最後に、狙いどおりにいかなかったときのことを予想してみます。次の図です。銀行は貸し出し姿勢をさらに緩めて、資金供給を進めようとしています。しかし、企業も個人も先行き不安から投資に積極的に動きません。しかし、日銀は市場から年間 80 兆円の国債を買い上げます。そうすると、当然、今以上に日銀当座預金に積み上がります。金利を取られることを嫌う金融機関は、その資金で国債を買います。その国債を、また、日銀が買い上げる。無限連鎖になってしまいそうな気がします。

ですから、こうしたことにならないよう、呼び水となる実質的な経済政策が不可欠になるでしょう。また、それに連動して、期待インフレ率を高めるアナウンスも必要です。さらに、思い切った財政出動も必要なのではないでしょうか。こうした金融・財政一体の対策がマイナス金利政策を成功させるカギになると考えています。

ご清聴ありがとうございました。

次週のプログラム： 5月17日 合同夜間例会の為休会

5月18日 合同夜間例会・ゴルフ

次々週のプログラム： 5月24日「卓話」

エイワ税理士法人・(株)英和経営ブレイン 代表 佐藤 英人氏